

# 丹鶴叢書

草根集十三

			和書門
二九三六四	一三八	一五四	類
函	架	冊	

內閣文庫			
二九三六四	一五四	二六函	和書
函	架	冊	類

內閣文庫		
番號	和 29364	
冊數	154	( 68 )
函號	216	2



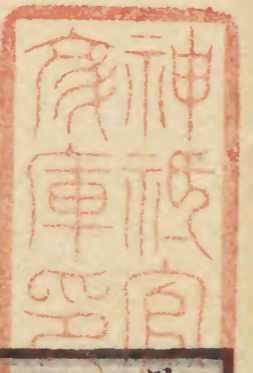
Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



© Kodak, 2007 TM: Kodak





草根集第十三

長祿元年正月朔日試筆

春朝日 長祿元年正月朔日試筆

春夕月 瑞雲

春祝言

二日月

春

春

春

架齡

附一二九三

丹鳥叢書



初春天 もよほしき 是 もよほしき 一 もよほしき 也 もよほしき 天 もよほしき 地 もよほしき 人 もよほしき 神 もよほしき 鳥 もよほしき 池 もよほしき 歎 もよほしき 冬 もよほしき 身 もよほしき 怨 もよほしき 切 もよほしき 恋 もよほしき 海 もよほしき 邊 もよほしき 松 もよほしき 神 もよほしき の もよほしき 母 もよほしき の もよほしき 木 もよほしき の もよほしき 影 もよほしき 樹 もよほしき 陰 もよほしき 残 もよほしき 雪 もよほしき 穿 もよほしき 草 もよほしき 虫 もよほしき 門 もよほしき を もよほしき く もよほしき 志 もよほしき の もよほしき い もよほしき 車 もよほしき 雞 もよほしき 鳴 もよほしき 昔 もよほしき 曉 もよほしき お もよほしき の もよほしき も もよほしき も もよほしき 白 もよほしき 月 もよほしき 柳 もよほしき の もよほしき 影 もよほしき を もよほしき 照 もよほしき 入 もよほしき 十 もよほしき 六 もよほしき 日 もよほしき 或 もよほしき 所 もよほしき よ もよほしき く もよほしき 讀 もよほしき 交 もよほしき 中 もよほしき 小 もよほしき

千雀

早 春 いづれ 夕 落 花 花の枝 別 恋 をり 関 路 嵐 おぼ 廿 日 招 月 草 原 月 次 り 毎 山 有 春 色 春 立 春 燕 来 鳥 松 島 松

千鳥集書目



初春霞 古川の杉の影 故山猿 或死き月次つき 多年翫梅 早春水 海邊志 島 鶴 二月十日 月次

初春霞 古川の杉の影 故山猿 或死き月次つき 多年翫梅 早春水 海邊志 島 鶴 二月十日 月次

遠望山花 暗天歸雁 社頭祈世 初 遠 槁 十二日 春色浮水 山 霞 月

丹波叢書





浦春曙三月九日をあむいの花を枕とそそいで一眠せぬまのうらぐ  
 樵路廠しげの夜のきよむしむるのゆりまきつたのうた歌  
 通書恋とんしゆをいひなむしんをうたふの流るる流るる  
 子日松こひ玉帯たまたふらふらとてのまのどちの藤をたぬ  
 桃花つばな山やまをまわつてかおるしんをうたふの井いをうたふ  
 急別恋いそ夜のの神かみのうたをうたふのうたをうたふ  
 古寺鐘こあとのかきこひの清きよむしむるしんをうたふ  
 初春霞はつあまのこのを同どうをうたふのうたをうたふ  
 水みづ辺へ 藤花ふじ繞まわ庵あん 花はなのえも細こ谷や川がわをた後のちむしむるのうたのうたのうた  
 空風恋くうをうたふしんをうたふしんをうたふしんをうたふ  
 古寺嵐こあまの川がわをうたふしんをうたふしんをうたふ  
 三條西洞院さんじょうのまをうたふしんをうたふしんをうたふ  
 落お花はな風かぜ のうたをうたふしんをうたふしんをうたふ  
 春田蛙はるあまのまをうたふしんをうたふしんをうたふ  
 寄身恋よしんをうたふしんをうたふしんをうたふしんをうたふ  
 花春友はなあまのまをうたふしんをうたふしんをうたふ

三月九日  
 落花風  
 春田蛙  
 寄身恋  
 花春友

丹波叢書



終夜月 月もささる夢やみさくんほやの園をへんやあはゆり  
 寄鳥恋 あはぬの積もるけしんふきののしづかにあはぬ  
 島 松烟をせしむ地ははらの神さくらも浮きぬの松  
 四月八日好も住持室舜修理大夫清信の  
 一 次一 座あつて  
 更 衣やあはれもせしむとあはれもせしむとあはれも  
 寄歎恋 とあはれもせしむとあはれもせしむとあはれも  
 路 芝 草もあはれもせしむとあはれもせしむとあはれも  
 九日恩徳院のあはれも  
 二月分  
 春 草 荒小田のあはれも  
 子松

遅 日 影の影つるさあはれもせしむとあはれも  
 春 恋 感もあはれもせしむとあはれもせしむとあはれも  
 十一日壬午のあはれも  
 人々 泣きあはれもせしむとあはれもせしむとあはれも  
 首夏藤 茂りあはれもせしむとあはれもせしむとあはれも  
 夕立雲 時なあはれもせしむとあはれもせしむとあはれも  
 寄拍恋 言あはれもせしむとあはれもせしむとあはれも  
 懐旧催涙 古寺の昔もあはれもせしむとあはれもせしむとあはれも  
 一人もあはれもせしむとあはれもせしむとあはれも

十二日修理たす家のけしきとて入らむ  
きみし中よ

短夜夏月よその月経き筆のつこのまよひの恨らむも  
六月後六月の七郎の京のかよひの流の麻子や別れら  
暁逢恋鳥鳴くはよきおの別れと夕の静たをいひし  
旅泊あむきはのあくもあむの泊し後よ抄の抄せ  
四月廿一日よそまふ新造よりけしきは  
十八日回家高き月次始あまし

竹亭夏来宿ふきよのけしきは竹のまのけしきをたす  
遊<sup>當坐</sup> 糸 玉侍入るよきおの別れと夕の静たをいひし

月 十 <sup>美子</sup> たすきよの月経き筆のつこのまよひの恨らむも  
忘 恋 亡きおの別れと夕の静たをいひし  
山 家 らよきおの別れと夕の静たをいひし  
述 懐 日の静たをいひし  
廿九日あるはよきおの別れと夕の静たをいひし  
残花在何 尋んお月のの様のまよひの恨らむも  
夕採早苗とる種よ夕の静たをいひし  
恨身絶恋 ありはの烟のまよひの恨らむも  
江孤舟 夕の静たをいひし  
五月四日右京大夫乃家より月次よ



廿日草子尾月次

盧橋驚夢 風をる花橋の...  
 杜五月雨 花をる...  
 返事増虫 ほととぎす...  
 朝霞 暁の...  
 水鳥 鳥の...  
 山家 山家の...  
 廿二日或买の...  
 林樗 樗の...  
 暗夜螢 螢の...

魚 鏡 向いて...  
 昌 蒲 出...  
 夕 顔...  
 寄山 恋...  
 谷 風 坂...  
 廿二日 恩徳院の哥合  
 夏 山 松...  
 夏 鳥 柳...  
 夏 恋 我...  
 亦 四日 依理...

丹鶴齋書

水辺知花 影つさうのむさる本朝の清とたりのむのト  
泉忘夏 影つさうのむさる本朝の清とたりのむのト  
寄拍恋 ちせ風海まを又つむ影つさうのむのト  
旅人休橋 影つさうのむさる本朝の清とたりのむのト

十六日清水月次

盧橋 本朝の影つさうのむさる本朝の清とたりのむのト

五月雨 河の影つさうのむさる本朝の清とたりのむのト

逢 恋 入つさうのむさる本朝の清とたりのむのト

若菜 影つさうのむさる本朝の清とたりのむのト

夏草 影つさうのむさる本朝の清とたりのむのト

初 恋 影つさうのむさる本朝の清とたりのむのト

羈 旅 影つさうのむさる本朝の清とたりのむのト

廿九日小笠原備前入道浄元明宗寺

深夜梅 影つさうのむさる本朝の清とたりのむのト

深山鹿 影つさうのむさる本朝の清とたりのむのト

寄蝶恋 影つさうのむさる本朝の清とたりのむのト

往事夢ぬ 影つさうのむさる本朝の清とたりのむのト

六月四日大光明寺

郭 公 影つさうのむさる本朝の清とたりのむのト



行路夏衣 風涼あつた衣たてぬも言はくや海つゆ孫乃様  
 空鳥雜 みるれきしものあつてもりまもつたのむじ老のま  
 海邊霞 まゆるはよ霧とまお舟の床のいとおるを別し  
 屋上夕顔 枝もあはれぬるやめつしよもいんか教あるは魚  
 水鳥數多 ちくくも葉も波よ水鳥のまよとあつたのいせ  
 空海恋 神ゆるさるるなつよか後へて時をいぬまをいぬ  
 古郷嵐 うつり甲斐もあつたまをいぬまをいぬまをいぬ  
 十日高松大神宮法樂哥合  
 氷室 夏あつてもいぬまをいぬまをいぬまをいぬまをいぬ  
 夕顔 山街の庭もあつたまをいぬまをいぬまをいぬまをいぬ

古寺 もれきしものあつたまをいぬまをいぬまをいぬまをいぬ  
 十五日あつたまをいぬまをいぬまをいぬまをいぬまをいぬ  
 首夏 まるあつたまをいぬまをいぬまをいぬまをいぬまをいぬ  
 空衣恋 ちくくも葉も波よ水鳥のまよとあつたのいせ  
 旅泊舟 ちくくも葉も波よ水鳥のまよとあつたのいせ  
 廿日草屋月次  
 窓 堂もあつたまをいぬまをいぬまをいぬまをいぬまをいぬ  
 納涼 なつたまをいぬまをいぬまをいぬまをいぬまをいぬ  
 海路 まるあつたまをいぬまをいぬまをいぬまをいぬまをいぬ  
 山霞 山霞もあつたまをいぬまをいぬまをいぬまをいぬまをいぬ

丹鳥齋書

崎 霧をよききりぬのりさちあきさきさき物よ色しつ浦風  
 増 悲くおろくは神あは海の一人よあやうきものよその夜も  
 懐 旧古の昔ようもさかすも 井筒ようもさかすも  
 廿三日西徳院のあ合よ  
 鶉 川よかよ橋舟のさかすもさかすもさかすもさかすも  
 晚 涼 杉の陰さめさかすもさかすもさかすもさかすも  
 別 恋 惜むもさかすもさかすもさかすもさかすもさかすも  
 廿五日あるはさかすもさかすもさかすもさかすも  
 鶉川 舟 隙もさかすもさかすもさかすもさかすもさかすも  
 寄 三 恋 陰のむさかすもさかすもさかすもさかすもさかすも

釈 教 大さよめさかすもさかすもさかすもさかすも  
 廿九日飛鳥井中納言雅親郷より大神あ石清水  
 多宮法樂さかすもさかすもさかすもさかすも  
 氷 氷 氷 氷 氷 氷 氷 氷 氷 氷  
 後朝 恋 釈 教 陰のむさかすもさかすもさかすもさかすも  
 祝 祝 祝 祝 祝 祝 祝 祝 祝 祝  
 石清水  
 路 菽 ささきさかすもさかすもさかすもさかすも  
 橋 雪 後より打ちぬさかすもさかすもさかすもさかすも  
 残月 関 お飯の国路さかすもさかすもさかすもさかすも  
 七月七日將軍家の書不伝よさかすもさかすもさかすも



修理をすのたかまへ七十一の夜あまは

待七夕 あまのつゆ ちかづきつゆはあまのつゆのたのめ舟 あまのつゆ

七夕後朝 星合のやのむゆふつ又つあまのきるあま

七夕祝 星合の君をたのめつあまのきるあま

同日あまは法樂 あまのつゆ

七夕天 ばあまのつゆ あまのつゆ 天の川の勢 つみ

八日日下部敏景 あまのつゆ

深夜月 文よりあまのつゆ あまのつゆ 枕 あまのつゆ

寄旅恋 多あまのつゆ あまのつゆ 枕 あまのつゆ

旅泊重夜 ちかづきつゆ あまのつゆ 枕 あまのつゆ

十日高松大神宮法樂 あまのつゆ

新秋露 ちかづきつゆ あまのつゆ 枕 あまのつゆ

秋夕風 秋の風 あまのつゆ 枕 あまのつゆ

寄月恋 月 あまのつゆ 枕 あまのつゆ

十日草尾の月次 あまのつゆ

菖花盛 あまのつゆ 枕 あまのつゆ

山秋夕 秋の夕 あまのつゆ 枕 あまのつゆ

社頭祝 ちかづきつゆ あまのつゆ 枕 あまのつゆ

初春 ちかづきつゆ あまのつゆ 枕 あまのつゆ

秋田 ちかづきつゆ あまのつゆ 枕 あまのつゆ

丹鳥書



寄松祝言 常坐 くらもの程とて神は桂も松も生まはるの  
 暁立秋 常坐 又やん秋立秋の暁もあはるのなる月乃や  
 獨見月 くらもの程とて神は桂も松も生まはるの  
 寄遣水患 くらもの程とて神は桂も松も生まはるの  
 社頭水 くらもの程とて神は桂も松も生まはるの  
 十五日草庵月次 中一  
 三日月玉匣 中一  
 海邊月 中一  
 故郷月 中一  
 廿日草庵月次 中一

古寺秋月 朧山 中一  
 寄月恨恋 泣るよ海のきとみく 中一  
 月前懐旧 昔より泣くよも 中一  
 袖 常坐 露 老に花風 中一  
 寄鐘恋 くらもの程とて神は桂も松も生まはるの  
 山 寺 あはるの程とて神は桂も松も生まはるの  
 廿一日右京大夫の家 中一  
 月出山 中一  
 寄答 軒菜 くらもの程とて神は桂も松も生まはるの  
 孤夢易驚 独るよ星ぬ 中一

廿二日 志遠渡のち令よ  
 田上秋霧 朝日新く  
 野分後月 やう海  
 遇不逢 志遠渡のち令よ  
 廿五日 日下部 敏景  
 秋田露 ちう田  
 月前馬 みるもの  
 寄神祝 神凡の  
 初秋萩 亥さぬ  
 寄歎 亥の

山家煙 山里  
 廿六日 清月次  
 有明月 在の  
 露底虫 子の  
 山館松 位和  
 萩 志遠渡  
 葛 志遠渡  
 厭 志遠渡  
 橋 雨  
 廿七日 志遠渡 柳の家

丹鶴樓書

祓 爲 鳴 鶴 衣 袂 小 村 の 暮 色 暮 色 暮 色  
 見 月 光 の 月 月 の 暮 色 暮 色 暮 色 暮 色  
 神 祇 暮 色 暮 色 暮 色 暮 色 暮 色 暮 色  
 萩 風 風 風 風 風 風 風 風 風 風 風 風  
 空 管 空 管 空 管 空 管 空 管 空 管 空 管  
 市 管 空 管 空 管 空 管 空 管 空 管 空 管  
 廿九日源貞興ききり 讀み中  
 初秋嵐 暮色 暮色 暮色 暮色 暮色 暮色  
 河紅葉 之田川 暮色 暮色 暮色 暮色 暮色  
 尋 暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮

名 天 浦 暮 色 暮 色 暮 色 暮 色 暮 色 暮 色  
 暮 色 暮 色 暮 色 暮 色 暮 色 暮 色 暮 色  
 早秋氷 暮色 暮色 暮色 暮色 暮色 暮色  
 寄秋風 暮色 暮色 暮色 暮色 暮色 暮色  
 秋田家 暮色 暮色 暮色 暮色 暮色 暮色  
 九月五日修理 暮色 暮色 暮色 暮色 暮色  
 菊 露 仙 人 の 暮 色 暮 色 暮 色 暮 色 暮 色  
 秋月冷 暮色 暮色 暮色 暮色 暮色 暮色  
 暮 色 暮 色 暮 色 暮 色 暮 色 暮 色 暮 色  
 暮 色 暮 色 暮 色 暮 色 暮 色 暮 色 暮 色

蕪殿曉暈 暈つてまゝに鳥のさきをみればしづかに  
 遠山松 なるや飲のさかきもみればしづかに  
 月七日ある所を合ふ  
 田上鴨 ぬるまゝかきむねとけつてはむねの  
 山紅葉 葉黄一本 なるまゝに夕日のさきをみればしづかに  
 祈逢恋 くるまゝに夕日のさきをみればしづかに  
 十日高松大神宮法樂を合ふ  
 行路霧 しのりの昔のむねをみればしづかに  
 江上鶉 なるまゝに夕日のさきをみればしづかに  
 寄秋恋 なるまゝに夕日のさきをみればしづかに

山名三歌か浦 定家への歌をわを詠と歌を

あつちよちくけを〜

詠人のさき〜

十二日ある所を合ふ

〜をゆは〜

初郭公 初こきよなるまゝに夕日のさきをみればしづかに  
 採早苗 初こきよなるまゝに夕日のさきをみればしづかに  
 待夕急 初こきよなるまゝに夕日のさきをみればしづかに  
 都首夏 當生 初こきよなるまゝに夕日のさきをみればしづかに  
 被厭恋 上美 初こきよなるまゝに夕日のさきをみればしづかに

古寺橋 久未もとせしむらひくさかしの名

十五日或所より鏡あつてふ

萩音近枕 心くさき夜の風は萩の音のしづか

隔夜擣衣 まもるむらむら衣の音をかよひし

寄松虫 きなぬ松の枝めんとや

嶺樹猿 冬原の嶺のまゆのまゆを猿ちむ

十七日三ツ浦の家月次

曉聞擣衣 心あまの夜をむらむら

露染山葉 叶もゆら風のまゆめを

寄日祈恋 たのめくまゆめをくれと

閑遊薄石 當世 石も風よき

立名恋 当世 名もつら

旅泊舟 大舟のほろ

廿日草庵乃月次

擣衣 月まのむ田の夜うつ

紅葉 女一本 叶もゆら

河鳥 昔もゆら

原薄 當世 薄の風

秋霜 あまの霜

秋尋恋 まゆめを

丹鶴書







岸頭竹 （注） 八月八日下部敏景とありし月次よ  
 初冬山嵐 （注） 霜夜寒月ありし雲の  
 海上云遠 （注） 心色 （注） 寺 （注） 十二日右京大夫の家より清  
 里初冬 （注）

折言 （注） 夜過関路 （注） 十五日細川上総今氏之家より清  
 木 枯 （注） 晝 魚 （注） 山 （注） 十六日或兵の命令よ  
 時雨易過 （注） 濱辺千鳥 （注） 曉燈欲消 （注）

丹鶴叢書

十七日三郎女傭家の月次よ  
 夕時雨 夕つ日影をまよふつらふらん  
 庭寒草 草の生えぬ庭のよまぬ  
 江上船 おまつ風入江のむら  
 初當坐冬 冬くぬのまのつら  
 炭 竈持つゝ薪の白炭も  
 寄橋 寄つて付とめ  
 曉 鶏 中出ぬの  
 廿日草を月次よ  
 松間霜 さび竹葉文りま

田残 鴈 田の残る鴈の渡り  
 寄夢 寄つて夢を  
 夕鷹 夕鷹狩鳥の  
 別無書 別無書  
 夕野 夕野  
 廿二日思徳流を合よ  
 時 雨  
 氷 鳥 氷  
 夕 夕  
 十一月五日修理大工の家月次よ



ナ七日迄於十浦の家の月夜  
 遠 雪を踏みながら  
 千鳥の鳴き声  
 祈 せよ先原  
 推葉木枯 當坐 少の影  
 山家夜雨 當坐 山の家  
 十九日高松大神宮法樂歌合ふ  
 河寒月川原の  
 枯野霜

尋死 當坐 月花  
 廿一日思徳院  
 寒月 俣桑

風前雪のふりよふとめくはあそひし  
 行路市我々の市場のうらやみ  
 山鈴廿四日右京大町の家  
 獨開氷鳥 室のあそびの念七柴とまほし  
 寒日恋 仍のあそびの念とまほし  
 名天駅 ちよとむかしのあそびの念  
 庭合歡 仍のあそびの念とまほし  
 廿五日夜山名浮ふや郷 同き歌  
 浦千鳥 仍のあそびの念とまほし

寄嵐恋 くはあそびの念とまほし  
 社頭祝 仍のあそびの念とまほし  
 十二月四日右京大町の家

冬曉天 仍のあそびの念とまほし  
 寄冬迷懷 仍のあそびの念とまほし  
 寄冬後恋 仍のあそびの念とまほし  
 五日修理方丈家の月次

冬天象 仍のあそびの念とまほし  
 冬植物 仍のあそびの念とまほし  
 冬人事 仍のあそびの念とまほし







寒樹嵐杜ののほろもみさね枝のちねあふあふおほくほく  
 恨悔恋 いのち けはなほの烟もかきまわすのまの浦風よ  
 山 白波みながさく山ほくおとがけ人もけけりたか  
 ナニの修理大夫の家より聖廟は樂百そ中ふ  
 山 霞いつともをさそんしこの山はくしんあふ  
 翫 花 山橋おきくも花もさかきさかきあふむ  
 首 夏くおほくもを隣の中垣に衣かほりささくは花  
 野 萩心をよみみりくもねん人まひり野人の林藤  
 連 雪いつともく清くも九もやまの山はく林乃人  
 絶 人いもみりか 一本 高き峰に我もくふたけまの松

田 家 やさしき母もはなよきえぬるもあふほ小田の辰  
 廿日草をもの月次よ

月前雪を白くもとのくささかかきまわす月ねふ  
 炭竈煙 本とたちしをりけり炭の煙もさかきあふ  
 窓鏡恋 彩やむ清のくもあふちをあらは海の浦にさかき  
 松川寒月 みの山をたぐ川はも月の桂とさかきあふ  
 見形厭恋 心はあふちあふ海くもまの末の葉をさかきあふ  
 山亭松風 みる友とあふさかきあふさかきあふ  
 廿一日 備ま入道浄元の家より清くあふ  
 時 雨よあふさかきあふおほくあふさかきあふさかきあふ





冬 曉 冬のしづめやむのうらやうさささうふかしのきり  
 翠 葉 葉の世の契ちあつこのまじふや我らか人よまじふらん  
 園 行 ちまよわしや民の家あゝその行せよあひあむ風あり  
 廿九日菅原之貞とてしづめあり  
 雨 透 霜 霜の日にけりおの木の陰斗おきてあさおれ乃トて  
 歳 暮 忘 忘るるもなきく建い老をもまのまのそや  
 且 見 恋 恋の心おつるもの白きももまのまよふはよ新ち無へそ  
 故 郷 雨 古の心ひ時をあるの底いそよの人の心おほくせん  
 古 寺 鐘 小おけやよほし鐘のありとて太山おろしおまの月

丹雀

